

平成22年度 総会・講演会・懇親会

総務委員会 委員長 大枝正人



去る5月25日(火) サニーストーンホテルにて、平成22年度総会・講演会・懇親会が開催されました。総会においては、平成21年度事業報告、収支決算報告、監査報告が行われました。また、今年は役員改選の年にあたりますので、先日行われた理事選挙の結果を踏まえ、平成22・23年度理事役員案が提出され、原案通り承認されました。その後、新役員から、今年度の事業計画案と予算案が提案され、承認されました。

第二部においては、テレビでもお馴染みの怒りのコメンテーター山本健治氏をお迎えし、「ヤマケン怒りのトーク——日本の政治はどうなるとんや!!」と題して講演が行われました。

第三部の懇親会では、山本健治氏もご出席頂き、市長をはじめ来賓の皆様と会員の楽しい交流が行われ、散会となりました。

講演要旨

私の少ない地方議員の経験くらいで、政治を語る資格があるとも思いませんが、これまで様々な経験をした中から、政治を上からの目線で見るとはならず、地べたからの視線で見ることができるようになったと思います。本日は、そんな地べたからの私の考えをお聞きいただけたら幸いです。

今の時代を見通すのに大切なキーワードの一つは、「パラダイムシフト」です。政治経済産業すべての分野で、私たちが従来行ってきた様々な仕組みや体制が破たんして、新たなも



のを創り出さなければいけない時代であるのに、それに気付かずに従来の考え方で物事を考え、実行しようとしていませんか?ということです。

先日、ある自動車メーカーに講演に行きまし

た。現在、そのメーカーの業績は好調で、社員の方々の目も生き生きしていました。その中で私は、「今、あなたたちはガソリン車を作っておられ、その車がよく売れて好調ですが、もう化石燃料の時代はおわりではありませんか?目の前に迫っているエネルギー革命に対して、どのように対応しようと考えておられますか?」という投げかけをしても、どなたも応えてもらえませんでした。私は、その社員さんたちが、目の前に迫っているパラダイムシフトに気づいていないように感じました。

多くの日本人が、かつての成功経験を忘れられずに、まだまだ、従来の方法でやっていけると勘違いしているように思えてなりません。2つ目キーワードは、新型インフルエンザや口蹄疫問題に現れた大感染=Pandemic パンデミック=です。これだけ、世界各地の開発が進めば、いままで私たちが接触せずにおれた、新たなウイルスや細菌が身近に迫ってくるのではないのでしょうか。そして、これらによる新たなパンデミックの脅威が押し寄せているように思うのですが、これに対する危機感が少なすぎるように思います。

そして、このような危険な状況に対処することが、政治の重要事項だと思うのですが、今の政権は、こうした国民の危機に対して、十分な対応が全然できていません。

宮崎県の口蹄疫問題が出た時の、対応のまずさには、驚きました。空気感染を防ぐために牛を隔離する必要があるにもかかわらず、牛小屋の施設は、いい加減な板塀で区切るだけの隔離をして、感染が防げるわけがないことは自明の理です。もっと、政府からの主導的な、素早い適切な対応が必要だったと思います。

大衆迎合=ポピュリズムの政治ではなく、しっかりとした信念をもった政治を期待する所以です。

1989年の東西冷戦体制の崩壊から時代は

大きく変わり、グローバリズムの時代になっているのに、その間に政治が適切な対応をしていなかったために、今の苦しい状況があるのではないのでしょうか。また、この20年間にそうした政治を許してきた国民の責任も大きいのではないのでしょうか。

経済に目を移すと、リーマンショックから、ドバイショック、そして、ギリシャの経済危機と進んできました。「A」アメリカ発「BC」を跳んで「D」ドバイショック、そして「EF」を跳んで「G」ギリシアです。続けて、「HI」が飛ぶと次は「J」のジャパンショックが近い将来訪れないとは決して言えない状況です。



この厳しい状況においても、政府は、有効な施策を打つことができません。

円高は一向に収まりません。日本の経済力・競争力が強くなってそれに連動して円高に振れることは歓迎しますが、今の円高は、マネーゲームによる円高です。

私は、まずデフレを押さえることが必要で、そのためにGDPの6割を占める内需の拡大が不可欠だと思います。商品の人々がお互いに売り買いすることが大切だと思います。政府は先行きの不安をなくすべく政策をとるべきでしょう。そして、国民はまず、身近な人同士で商品の売買をすることが大切だと考えています。本当に買いたいものを買う、という姿勢です。これによって、お金が循環し、経済の活性化が起きるのです。